

# 地域林政対談 イン 北薩

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」を実施しています。

第十三弾は、さつま町の日高政勝町長、杉水流博耕地林業課長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



ブナの実(紫尾山)

## いかに林業経営の意欲を高めるかが課題である

〔さつま町長〕

森林は利用期を迎えたが木材価格は低下したままである。しかし、木質バイオマスや輸出拡大により需要は増加しており、チャンス到来と感じている。森林組合をはじめとした民間事業者も高性能林業機械を導入し低コスト化を図っている。都会では若い人が高性能林業機械に興味を持ち、就職している例もあるようだが、町では林業就労者の新規確保に苦慮している。また、入ってきたも長続きしないとといった問題もある。先日、林業事業者の代表から「求人しても担い手が集まらない。また、定着しない」という話があった。事業の発注時期が一定期間に集中することから、そういう時期は土日出勤や残業も増えているようだ。林業事業者が安定的に受注できるよう、関係機関が横の連携をとって、定期的な打ち合わせをするなど発注側の体制を整える必要があると考えている。

有害鳥獣害対策について、捕獲と防御という両面から対策しているところ。最近はいノシシよりシカ対策が必要となっている。以前は電気柵だったがシカ対策には効果がない。メッシュのフェンスはコストも高いがやらざるをえない。ただ住民の要望に十分応えられない状況。農業対策で手一杯で林業まで追いついていない。捕獲の関係では、住民から実施隊を整備してほしいという要望があったことから、今年の4月から、合併前の旧町ごとの猟友会にそれぞれお願いして条例で対応するようにしている。国有林と連携し、地域一帯で対策を実施する

必要があることから、森林管理署とシカ捕獲に関する協定を締結したいと考えている。さつま町は竹林面積が多く、超早取りタケノコの産地として東京や名古屋に出荷しているが、植林地に侵入している状況にある。森林所有者の高齢化や後継者問題もあるが、いかに林業経営の意欲を高めるかが課題。伐期を迎えているなか、森林環境税により市町村が全面に出ていく必要がある。ただ、市町村職員の体制が十分整っていないとはいえない。職員は425人から325人に減った。特に林業分野での専門家は減っているし、補充も難しいところ。そういった中、地域林政アドバイザーをいち早く議会に諮って雇用することとし、7月から雇用して地域の活性化に繋げたいと考えている。森林総合監理士による支援・指導にも期待している。



日高政勝 さつま町長

## ● 事業体の育成と再造林の省力化をしていく必要

現在、九州の人工林の多くが伐採時期を迎えています。伐採時期を迎えるということは、伐採後の再造林が必要な箇所も増加しているということで、持続的な林業経営を実現していくためには、生産性の向上等の事業体の育成と併せて、再造林に要する経費の縮減を図ることが重要となっております。

**北薩森林管理署長** 町内の林業事業体が昨年度から国有林の仕事をしていただいている。職員は若く、高性能林業機械も取り入れて効率的に仕事をしていただいているところ。国有林としては事業の安定発注を通じて事業体育成、若手の就業者確保に取り組んでいきたい。

**鹿児島県北薩地域振興局農林水産部長** 林業従事者は、毎年170人程度参入しているが、県全体で1千5百人程度で推移している。高齢化等で辞めていく人も多いことからなかなか増加しないのではないかと。

**さつま町長** 町内の、各分野のモノづくりしている会社を回っても同じ状態。どの産業も同じではないか。近年、ベトナムなどからの外国人労働者受け入れも多いと思う。

**鹿児島県北薩地域振興局農林水産部長** 林業公社も発注時期によっては入札不調になっていると聞いている。県内外を問わず事業体の取り合いになっているのではないかと。事業が工期内に終わるか不安な面もあることから、事業発注の調整等が必要ではないかと。

**署長** ホームページで国と県の事業発注時期を公表しているところ。事業体が計画的に受注できるように工夫している。

**九州森林管理局長** 昨年は大隅署や宮崎南部署で入札不調が多かった。原因は事業体の労働不足など様々あると思うが、できるだけ早期発注できるように取り組んでいる。

**署長** 早期に発注して工期を長くとれるように工夫しているが、夏場の暑い時期を避けて秋に素材生産が集中する傾向があり、民有林の事業と重なっている模様。

**局長** 高齢者でも女性でも安心して仕事できるような林業経営をしていかなければならない。仕組みを変えていきたい。九州以外の地域では、

女性のオペレーターが増えてきている。これからの林業は、できるだけ手をかけず、特に造林に関しては省力化していかなければならない。国有林でも様々な実証試験に取り組んでいるところ。成長の良い系統の育種も進んでおり、一年間で1m以上成長するような系統も開発されつつある。下刈りも省力化できると期待している。短伐期で何回も収穫できるような早生樹の実証試験も実施している。

また、コンテナ苗を活用した一貫作業システムの取組により、年間を通して伐採と造林をしていけるようになる。今後、人が減っても対応できるように林業のやり方を変えていくことが必要と考えている。

**署長** 北薩の国有林ではヒノキが7割と多い。ヒノキの需要や価格が低迷しているが、資源もあり材質がいいので売り出せるのではないかと思っている。地理的にも良く、資源も充実していることから山に宝はあると思っている。

**局長** 宝はあるが、それをどう活用していくかだ。大型の加工場もそうだが、まずは安定供給するための事業体の育成が必要。また、再造林をきちんとやっていかなければ資源はなくなる。そういう実行管理も含めて森林総合監理士を活用していかなければならないと思う。まずは国有林で色々と取り組んでいきたい。



九州育種場で検定中のエリートツリー候補木

## ● 協定を締結して関係者が連携してシカ対策を

現在、九州全体的にシカ被害が拡大している状況です。市町村、県、国有林など、関係者が一丸となつて対策に取り組むことが重要です。

**町長** 紫尾山という大きな山があるが、かなりシカの生息数も多く被害多い。伐採のあとは広葉樹を植えるという考えはあるか。

**署長** 不成績造林地があれば、抜き切りして広葉樹の侵入を促し、天然更新を図っていく。シカが多いとそういう広葉樹の芽も食害されるので、パッチ状にネットを張って後継樹を育てるということをやっていく。また、発芽率が悪いと聞くので、シードトラップを設置して、種を取って芽が出たものを地元小学生に育ててもらってまた植林する、という取組も実施したいと考えている。

**町長** 小学生にとつて良い環境教育にもなる。

**局長** 紫尾山一体は保護林に指定しているので広葉樹はそのまま、また周辺の森林も強度な間伐をしながら針広混交林に誘導していきたい。ただ、そのためにはシカ対策をしていかなければならない。パッチディフェンス等の植生保護で対策をしていく方針である。また、町、猟友会と連携して紫尾山のシカ対策を強化していきたい。

**北薩地域振興局農林水産部長** ある猟友会の総会で、シカは少なくなっている、個体が小さくなつたという話を聞いた。管内の狩猟免許を持った者は1千百名いるが、約6割がワナで、銃器を扱う者は減ってきている。高齢化が進んでいるので後継者を育成していかなければならない。

**局長** 狩猟免許保有者数は増えているのか。

**北薩地域振興局農林水産部長** 少し増えている。農家の方には農作物被害対策のためワナ免許を取る際の助成をしているので、ワナ免許の有資格者数が増えている。

**町長** 町でもワナの講習会の講習料を助成をしている。銃器は保管が難しいこともあってワナが多くなっているようだ。

**局長** 国有林でもシャープシューティングなど色々やってきたが、くくりワナによる捕獲が最

も効果的だと思っている。

**町長** さつま町には、高度な技術を持った者が1名いる。報償金を出すので捕獲頭数は増えているが、捕つたあとの処理に苦慮している。

**北薩地域振興局農林水産部長** 県内には阿久根市、屋久島、伊佐市など専門の処理場が3箇所あり、ジビエに活用している。

**局長** シカの処分について、捕殺後のシカを腐敗させ分解する強力な菌が開発されている。一週間くらいでシカの個体を分解してしまうという「エスパス菌」という菌で、必要なら情報も提供したい。ただ、まずは捕らなければならぬ。紫尾山には登山道があるが荒れている印象。

**町長** 途中で滝もあって風光明媚だが、山ヒルが大量に発生しており、キャンプ場も泊まる人いなくなつてしまった。シカの影響で里にも出てきている。紫尾山はいい山なので、なんとか観光資源として活用したい。

**局長** 紫尾山は、九州百名山にも指定されており、登山客も多い。地域の経済活性化につなげられるよう活用したほうがよい。紫尾山の活用についても今後協議していきます。



紫尾山のブナ林。シカ被害により下層植生が消失している

## ● 木造施設を町のシンボルに

林業の成長産業化の実現に向けて、林業活動で生産される木材の需要先をいかに増やしていくか、ということが重要な課題です。

**署長** 信用金庫と商工会議所の建て替えの話があり、木造化できないかと相談を受けている。全てを木質化できなくとも、内装などでも使えないかと考えている。町のシンボルにもなることからぜひ県にも支援してもらいたい。

**町長** 建設予定地の土地は町有地である。来年度着工したいと聞いている。2つの建物をつなぐという考えもあるが、町の中心部にあるのでシンボリックな建物にならないかと期待している。町としても支援したいと考えている。

**局長** 耐火部材とのハイブリッドなど技術開発進んでいる。CLTでなくとも木材を使ってもりたい。パンフには木材利用の助成制度も載せているので参考にしてもらいたい。国土交通省、文科省、環境省にも色々な補助がある。ただし、民間の施設になると対象外になってしまう。お願いしかできないが、資源の有効活用や町の振興のためにぜひ検討してもらいたい。

**署長** 木造化は景観的にも良いのではないかと思っている。

**町長** 今は小学校だが盈進館という島津藩校跡地で古い石垣など残っていて、その一角であるのでぜひ景観を活かしたい。

**局長** 地域の皆で働きかけをしてもらいたい。

**署長** 鹿児島銀行の本社は内装材に県産材をふんだんに使うと聞いた。

**町長** 今後、公営住宅を新たに15棟、31戸建設する予定。これについては木造で建設する予定である。



北薩のシンボル紫尾山(1,067m)

## 地域林政対談 イン 北薩

平成29年6月21日(水) 15:00～17:00

北薩森林管理署会議室

出席者(敬称略)

○さつま町

日高 政勝 町長

杉水流 博 耕地林業課長

○鹿児島県 北薩地域振興局

入佐 真一 農林水産部長

中村 稔郎 林務水産課長

○林野庁九州森林管理局

池田 直弥 九州森林管理局長

前田 三文 北薩森林管理署長

勝沼 太志 九州森林管理局企画調整課長

